

〇〇さんの、その心を知りたい!

Vol.8

このコーナーでは、契約者の中で野沢・飯山をメインに事業を行なっている方に向けてインタビューさせてもらっています。お客さま同士が繋がりが合い、地元がより盛り上がっていったらいいな~と思っています。



さ~て、第8回目の今回は~!

翻訳家の「辛島・ジェニファー・フランセスさん」です。・・・はい。美人ですね。美人であると同時に、めっちゃめっちゃ面白いです(笑)なんて言うかな~。凄くオープンっていうか、異国の面白さみたいなものがやっぱりあるんですよ~。他愛のない会話でも全く退屈せず話していられます。一緒に飲みに行ったら、きっと超楽しいです。

Jennyさんが得意なのは「日本語」→「英語」だそう。逆のパターンも「出来ないことはないです」と、謙虚にお話してくれましたが、「仕事に限らずちょっとしたことでも気軽に聞いてみてくださいね~」とのことでしたので、皆さん是非楽しいJennyさんの翻訳を味わってください。

【インタビューは2020/3/16、伊勢宮公園「シュネー」さんのテラスで、猛吹雪の中ワインを飲みながら。】



Jennyさんの仕事を教えてください

僕: じゃあJennyさん(以下:J)よろしくお願いします。

J: よろしくお願いします。

僕: この状況がまたいいですね。なんでこんな吹雪の中やってるん!みたいな(笑)

J: ハハハ。しかもこれがまた3月中旬という(笑)

僕: はい、ではまずJennyさんの仕事を教えてください。

J: 仕事、はい、えーっと、主にフリーランスの翻訳をしています。日→英ですね。日本語から英語の翻訳を在宅でしているんですけど。

僕: あ、そっちがメインなんですね。(J:そっちが?)日本語から英語っていうのが。

J: あ、日本語から英語しかしてないです。

僕: そうか、考えてみれば2通りいるってことでもんね。日本語から英語とその逆と。

J: う~ん、英語から日本語にしたらちょっと日本語が怪しくなっちゃうかもしれない(笑)ふふふ。出来なくはないと思

J: うんですけど、基本的には日→英の方が得意なので、そっちの方をやっています。

僕: えっと日本生まれ日本育ちですよ。Jennyさん自身もハーフなんでしたっけ。

J: そうです。父親がイギリス人です。で、母が九州出身ですね。

僕: いつから野沢に来られたんですか?

J: 野沢は、2018年の12月です。

僕: あ、結構最近ですね。

J: 最近です。ふふ。まだ2年目です。

僕: その前から遊びに来てたりはしたんですか?

J: その前は何回か来てたんですけど...はい。



野沢に来ることになったきっかけは？

J: 妊娠をきっかけに...4年前くらいなんですけれど、まあ東京離れたらと思っていて、子育てにもっと良い環境に引っ越したいと思っていて...で、野沢がいいなと思って引っ越しました。

僕: もしかして奈津子さんの影響もあってですか？

J: なっちゃんの影響ももちろんあります。はい。きっかけとしては、いろいろと見ていたんですけど、やっぱりこう...コミュニティがあるじゃないですか。なかなか無い思うんですよ。山も近くて、っていうのは。やっぱり子育てって考えた時に野沢のコミュニティがあって、でも山も近くて、っていうのが凄いいなと思って。うん...

僕: なるほど。なかなか小さい頃からずっと住んでると、そういうのって感じないですけどね。でもやっぱり外から見ればそうかもしれないですね。

J: なんか小学校も近く、保育園も近くにあってっていうのが、すごい学年ごとに仲も良さそうだし。子どもにとってもすごい楽しいかなと思って。実際すごい楽しそうだし。

【Withなっちゃん。インタビューが終わった後も猛吹雪の中二人で滑りに行った！】



野沢のどんなところが好きですか？

J: 野沢は...なんかずっと東京にいたので、やっぱりこの大自然な感じもイイですし、歴史があるのもイイですし。で、コミュニティ、人もみんなイイですし(すみません笑 他の日本語ないですね笑)やっぱり冬はスキーもできますし。

僕: 温泉も行くんですか？

J: 温泉も！温泉ももちろん行きますね。

僕: で、今は会計関係の翻訳がメインって仰ってましたっけ。在宅でやって。

J: そうですね。今メインでやっているのは、監査・会計・金融関係って感じですかね。

僕: へ～。野沢に来る前はどんな所で働いていたんですか？確か「mont-bell」の仕事も何かって...？

J: ああ、「mont-bell」は友達(なっちゃんの旦那さんのガードナーさん)がやっている会社の「Outdoor Japan」から翻訳の仕事スポットでいただいたんです。前の会社は監査法人ですね。



僕: かっこいい～。その会社は海外に提出する用の監査資料を英語で作る会社ってこと？

J: いろいろあるんですけど...監査法人自体がグローバルの企業の傘下にあるので、内部のものもあれば、クライアントでグローバル展開している会社とかですと、監査報告書も英語でも作らないといけなくて。あと子会社のものも全部連結でやるので、そういうのも全部英語で用意しないといけないので...

僕: 難しそう！

J: いや～そんなに大した事してないですよ。サポート側だったので。

僕: 社会人になってからずっとそんな感じなんですか？英語に携わるような。

J: その前の会社ではもっといろいろやっていたんですけど...そうですね。基本的には。あと...それ以外のもやっていた。日本語だけで営業とかも。

僕: え、何の営業やってたんですか？

J: え！？え～と...ふふふ。(僕:内緒?)ふふふ。電子番組表の広告の営業をしていました。

僕: 上手そう。

J: 全然上手じゃない(笑) やばかったですよ、小学生っぽい日本語で。(笑)

僕: ハハハ。それもまたいいですね。海外に住んでいることもあったんですか？

J: 海外は大学の時に2、3年ぐらいいました。

僕: どこです？



【日中はもっぱら「パソコン」と「私。」】 【娘のクロエちゃん、ニイナちゃん。】

J: えっとロンドンです。

僕: そうなんだ～。Jennyさんみたいにハーフの方ってお家でどっちの言葉で喋るんですか？小さい頃は？

J: 私の家は母親が日本語を使って、父親が英語を使っています。

僕: そうなんだ。じゃあ常に両方しゃべりたいな？

J: そうですね。母も英語できないし、父も日本語できないから(笑) 必然的にそんな感じだったんですけど。

僕: いいですね。勝手に両方身につちゃいますもんね。

J: そうですね。うん。それはラッキーでした。

Jennyさんの仕事の面白いところは？

J: まあ...難しいなあ(笑) 監査法人に関しては、より正確さが求められる仕事なので気を張りますが、**翻訳自体に対してはすごい楽しい**と思っていたので。**翻訳はやっぱりすごい楽しい**。説明...難しいんですけど、昔から...で、父親も翻訳者だったので、その影響があるのかもしれない。うち、兄も翻訳をしていて...

僕: え、凄くないですか！ サラブレッドですね。

J: で、それ以外で最近、たまたまですけれど広がって...**野沢温泉のお話とか内容的にすごく面白い**といいますが、あとmont-bellとかも。そういうお仕事とかも入るといろんな知識が身に付くので。うん。野沢に関しては**すごい野沢の勉強になったので、凄よかったな...**。いろんな山菜の魅力など、初めて知ることばかりでしたね～。ふふふ。道祖神祭りのこととか。改めて、野沢って面白い。と思いました。

僕: 逆に、難しいところは？

J: 難しいところは...仕事っていうよりは、初めてこう...会社から外れて1人でやってるんですけど、本当に1人でやっているの、若干引きこもり気味っていう(笑) ホントもう、「私」と「パソコン」みたいな。もう毎日(笑)

僕: なるほど。僕が予想したのは、日本語から英語ですよ。そうすると、ちょっとしたニュアンスって絶対外国人と日本人と違うじゃないですか。だからそういうところが難しいのかなあと思ったんですけど、その辺はどうですか？ありきたりな質問かもしれないですけど、100%は絶対に無理ですよ。ニュアンスを伝えるのって。

J: そうですね。100%は無理じゃないかな。**だから1番良いのは作った人と直接会話をして「これどういう意味ですか？」というのを確認した上であれば結構近くなるのかなと思うんですけど、どうしても文章だけを見る場合ってというのはなかなかそのニュアンスって伝わらない時もあると思うんですよ。いろんな捉え方も出来ると思うので。うん。**

僕: その辺もやっぱりAIだとこの先も難しい部分もあると思いますか？

J: うん。難しいと思います。**だから凄いAIは便利だと思いますけれど、完全に(人が行う翻訳と)置き換えるっていうことは現時点ではできないと思います。**

僕: だから翻訳能力ももちろん大事なんでしょうけれど、その人の感受性っていうんですか、そういうのが結構大事ですよ、きっと。

J: そうですね...

僕: たぶん人によって全然違う文章になりますよね。

J: うん、なりますね。ふふふふふ。確かに。

僕: Jennyさん面白いから面白い文章になりそうですもん。

J: え、わたし!? 大丈夫かなあ(笑) そんなことないですよ。



「ノザワの休日」を教えてください。

J: えーっと...野沢の休日は、う～ん...冬はだいたい雪遊びですかね。子どもたちと。

僕: 2人とも好きですか？(雪遊びが)

J: うん、好きですね。で、やっぱり温泉も大好きなので、温泉に行って...

僕: ちなみに、どこの湯が好きですか？

J: えーっと最近よく行くのは、野沢出ちゃうんですけど(笑) 湯...滝の湯？

僕: 湯滝温泉のこと！？

J: 湯滝温泉だ。車で行けるから。うん。

僕: 滝の湯は行ったことありますか？僕は好きだけれど。あと真湯もいいな。行ったことありますか？

J: 真湯は行ったことあるんですけど、熱すぎて入れなかった(笑)

僕: ハハハ。じゃあ野沢で行くとしたらどこに行くんですか?

J: 野沢で行くとしたら、「ふるさとの湯」か「熊の手洗い湯」ですかね。

僕らはどんな時にJennyさんを頼ったら?

J: うーん...どうですかね～。

僕: ちょっと考えてみたんですけど、例えばウチ(ペンション)の場合ですと、海外から直接予約してきたりする人がいるんですよ、英語で。そういうのとか(遠隔などで)をやってもらえるともめちゃめっちゃ気が楽なんですよ。

J: あ～、なるほど。もう全然ウェルカムです。それは全然浮かびませんでした。

僕: まあ、出来ない事ことはないんだけど、結構「アレやんなきゃ」というのが頭にあるだけで、そういうのは重なっていくと気持ち的にも負担になるから、とりあえず英語の予約関係については「Jennyさんをお願いしておけば大丈夫」と思えるだけでも凄く気が楽だと思うんですよ。他のことに集中できるから。

【インタビュー風景。吹雪。】



J: あー、すごくわかりますよ。私も英→日をやらない理由も...内容によっては出来るんですけど、監査法人の監査報告書とかなると結構難しい日本語で書かないといけないので、やろうとなるとやっぱり気が重し、時間がかかるんですよ。日→英の2、3倍は時間がかかるので効率も悪いんですよ。だからそういうのは他の翻訳者...日本語が得意な翻訳者に任せて、と思うので凄くわかります。

僕: そう、あと今Jennyさんが言ったようにいわゆる「専門用語」、例えば医療の関係ですとか、あと役場や観光協会など、ちょっと公式の文章が必要な時に、野沢のスタッフは結構困ってると思うんですよ。だからそういう時に専門家がいると相当助かりますよね。あと、宿のメニューやインフォメーションを作るときなんかもちろん。

J: そうですね。例えば鍋の美味しい食べ方なんかもちろん毎回説明するより、1回(説明文を)作っちゃえばいいわけですからね。



僕: 結構飲みに行ったりもしてるんですか?

J: 飲みは...ふふふ。

(中略)

僕: 最高ですね。もう野沢のお祭りも経験してるんですよね?

J: そうですね。見る側ですけど。

僕: Jennyさんにぴったりの村ですよ(笑)

Jennyさんの仕事のこれからは?

僕: じゃあ最後に...うお!(猛吹雪に声がかき消される)

J: 大丈夫ですか!? 私も写真撮っていいですか!? (笑)

僕: 最後に、翻訳の仕事がこの先野沢で、あ、野沢じゃなくてもいいや。こうなっていったらいいなと言うものがありましたら教えてください。

J: あ、でもほんとに、海外のお客さんも多いと思うので、そういう英語のニーズがあればお役に立てるものがあるればぜひ役に立てたらいいなって思っています。お仕事って言うよりは普通に気楽に聞いていただくかたで...全然喜んでやりますので。はい。

僕: じゃあ色々これからまたよろしくお祈りします。

J: はい。こちらこそぜひよろしくお祈りします。



【翻訳家(日本語・英語)】

辛島・ジェニファー
フランスさん

◆オフィス:野沢温泉村・前坂 ◆電話:090-9951-9231
◆メールアドレス:jfkarashima@outlook.jp